

ジュネーブの博物館

KDDI欧州調査開発グループ・グループリーダー

つるさわ 鶴沢
むねふみ 宗文



はじめに

中世より続くジュネーブの地には自然、芸術及び工業に関する様々な歴史と記録があり、また古くからの経済的発展を象徴するように世界的にも貴重なコレクションが数多く保存されています。今回は出張や旅行で来られた方々の知的好奇心を刺激する、ジュネーブの博物館／美術館をご紹介します。

今回掲載する情報は2015年4月現在のものであり、展示品や閉館日などは諸事情により変更されている可能性があることを予めご了承下さい。

Rive Gauche (左岸)

レマン湖の西端を中心に南北に広がるジュネーブ州ですが、地元では湖の北側・南側という表現ではなく、レマン湖からフランスに向かって流れるローヌ川を中心に左岸(レマン湖の南側、旧市街のあるエリア)若しくは右岸(レマン湖の北側、ITUや空港のあるエリア)という呼び方をします。ジュネーブ市内の殆どの博物館や美術館は歴史的建造物の多いRive Gauche(左岸)に存在します。

①美術歴史博物館 (Musée d'Art et d'Histoire)

住所：Rue Charles-Galland 2, 1206 Geneve

Website：http://institutions.ville-geneve.ch/fr/mah/

入場料：無料(常設展)／特別展は有料

営業時間：11：00～18：00

閲覧時間の目安：3時間

休館日：月曜日

博物館自体が100年以上の歴史を持ち、考古学部門、美術部門、工芸部門の3部門で構成されています。地下1階から2階の考古学部門ではスイス最大の古代エジプトコレクションを見ることができます。地上階と1階では中世から近代にかけての工芸品や古楽器が展示され、特に陶器や金属細工の装飾、彫金では



職人技の数々を見ることができます。2階の美術部門ではピカソやモネの作品を見ることができ、またスイス人画家、フランス人画家による古のジュネーブの風景画などに歴史を感じることができます。各部門に数千～数万点の所蔵品が展示されているため、時間と体力の許す限り楽しむことができますが、部門別に数回に分けてご覧になることをお勧め致します。

②パテック・フィリップ博物館 (Musée de Patek Philippe)

住所：Rue des Vieux-Grenadiers 7, 1205 Genève

Website：www.patekmuseum.com

入場料：10.00スイスフラン

営業時間：火～金 14：00～18：00 / 土 10：00～18：00

閲覧時間の目安：90分

休館日：日曜日、月曜日、スイス祝休日

1839年にアントニ・パテックとフランシシュェック・チャペックによって創業されたパテック・フィリップ社の歴史と膨大な時計コレクショ



ンを見ることができる博物館です。1階が昔の時計工房と古道具の展示、2階から3階が時計コレクションの展示です。指定時刻になるとモーゼの足元で2人の天使が鐘を打ち鳴らす懐中時計、30年分のオートマチックカレンダーが実装された腕時計、そして羽とくちばしを動かす約2cmの小鳥が飛び出しさえする仕掛け時計など、エレクトロニクスもCADも無かった時代に歯車とギア、バネとゼンマイだけで考案された仕掛けの多くがCGを使って英仏両言語で解説されています。機械式時計に興味のない人でも、なぜ彼らが天才時計技師と呼ばれ後世に語り継がれるのかが感じとれるのではないかと思います。現在スイスの機械式時計業界は、過去に経験したクォーツの出現、デジタルウォッチの発明に次ぐ第3の変革期、即ちスマートウォッチの出現と人々の生活の変化にどのように対応していくのかという課題に取り組んでいます。しかしながらこの博物館の展示



を見ると、機械式時計の世界はスマートウォッチの世界とは全く違う芸術的な機械工作技術と彫金技術の賜物だということを再認識できると思います。

③自然史博物館 (Muséum d'Histoire Naturelle)

住所：1 route de Malagnou, 1208 Genève

Website：www.ville-ge.ch/mhng/index.php

入場料：無料

営業時間：10：00～17：00

閲覧時間の目安：120分

休館日：月曜日

ヨーロッパ最大級といわれる敷地に世界の生物や鉱物、またマンモスの骨格や恐竜の化石などの貴重なコレクションが展示されています。



入場が無料なので、親子連れの散策スポットとしていつも賑わっていますが、展示物の量とコレクションとしての希少価値は高く、無料だからといってなかなか侮れない博物館です。1階は鳥類と哺乳類の歴史、2階は両生類と爬虫類のコレクション、3階は人間と鉱物・地学の歴史などが展示されています。4階はスイスの国土における地質の展示があり、レマン湖の湖底モデルなども展示されています。レマン湖の最深部は水深310mと言われていますが、それが湖畔のどの街の付近なのかなども見ることができます。

④極東芸術美術館 (Musée des Arts d'Extrême-Orient)

住所：Rue Munier-Romilly 8, 1206 Genève

Website：http://fondation-baur.ch/

入場料：10.00スイスフラン（常設展）／15.00スイスフラン（特別展）

営業時間：14：00～18：00

閲覧時間の目安：90分

休館日：月曜日

19世紀に貿易で財を築いたスイス人、Alfred Baur氏が集めた中国の陶磁器及び日本の工芸品と芸術作品の美術館で、



パワーコレクションと呼ばれています。地階と3階に日本のコレクション、1階と2階に中国の陶器や翡翠の工芸作品のコレクションが展示され、日本のコレクションとしては珍しい、刀と鞘の装飾品や各地の有名工房の陶器などが展示されています。展示はテーマごとに小部屋になっていますが、全館共通で部屋の入口に展示品の説明を記したレストランメニューのようなブックレットが準備されており、いくつかの説明は日本語でも書かれています。

⑤ジュネーブ民族博物館 (Musée d'ethnographie de Genève)

住所：Boulevard Carl Vogt 65-67, 1205 Genève

Website：www.ville-ge.ch/meg/

入場料：無料（常設展）／15.00スイスフラン（特別展）

営業時間：11：00～18：00

閲覧時間の目安：90分

休館日：月曜日

近代的な外観の中に、日本を含む東南アジア地域から中東、そしてアフリカに至る各地域の民芸品・工芸品がコレクションされた博物館



です。工芸品の中でも供物や宝物に近い、祈りや政に使われると思われる古代～近代の品々が地下の体育館ほどのスペースに展示されています。また併設される特別展も特定地域、古の特定国家の宝物展などが多く、民族の風習や文化、権力者の嗜好が分かります。会議で一緒になった各地域の方々と同行すると面白いかも知れません。

⑥ジュネーブ現代アートセンター (Centre d'Art Contemporain Genève)

住所：Rue des Vieux-Grenadiers 10, 1205 Genève

Website：www.centre.ch/

入場料：8.00スイスフラン（websiteには5.00スイスフランと記載）

営業時間：11：00～18：00

閲覧時間の目安：120分

休館日：月曜日

建物の1階から4階に絵画、彫刻、写真、映像作品から空間インスタレーションに至るまで、また70年代から最近までの様々な現代アートが展示されています。現代アート

の楽しみ方は人それぞれですが、目の前の作品をインターフェイスにして、作者の主張や作品の意味を想像しながら自分なりの解釈を創出



する時間を過ごす、論理的な仕事に携わる人ほど頭の中がリフレッシュできるのではないかと思います。ここは地上階の受付で料金を支払った後、地階のコインロッカーに荷物を預けるのですが、コインロッカーの部屋が、昔のスイスでは全ての建造物に義務付けられていた核シェルターを流用した珍しい造りになっています。

⑦国際宗教改革博物館 (Musée International de la Réforme)

住所：Rue du Cloître 4, 1204 Genève

Website：www.musee-reforme.ch/

入場料：13.00スイスフラン

営業時間：10：00～17：00

閲覧時間の目安：90分

休館日：月曜日

プロテスタントの聖地と呼ばれるサン・ピエトロ大聖堂の隣にある、一見ひっそりとした博物館です。博物館自体は2005年にオープンし



た比較的新しいもので、ジャン・カルヴァンを中心に進められた宗教改革の道程が、最新の映像と音声を駆使して丁寧に説明されています。サン・ピエトロ大聖堂の地下にある考古学資料館とは地下通路で結ばれていて、サン・ピエトロ大聖堂の塔、考古学資料館、そして国際宗教改革博物館の三つをまとめて見学できる共通利用券もあります。博物館の門をくぐって受付に進むと、その入口前には日本の観光地によく見かけるオブジェがありますので、見学の記念にジャン・カルヴァンになってみるには如何でしょうか。

⑧ラート美術館 (Musée Rath)

住所：Place de Neuve 1, 1204 Geneva

Website：http://institutions.ville-geneve.ch/fr/mah/lieux-dexposition/musee-rath/

入場料：10.00スイスフラン

営業時間：11：00～18：00

閲覧時間の目安：60分

休館日：月曜日

宗教改革記念碑のあるバステイオン公園の目の前にある美術館です。作品はグラフィックデザインや写真を元にしたコラージュが多く、



また彫刻やインスタレーションも現代風で、ギリシャ神殿風の入り口からは想像できない、かなりポップな印象を受けます。前述のジュネーブ現代アートセンターと同様に、作者の意図を模索する贅沢な時間を過ごすことができます。

⑨ジャン・ジャック・ルソーの生家 (La Maison de Rousseau et de la Littérature)

住所：Grand-Rue 40, 1204 Genève

Website：www.m-r-l.ch/

入場料：5.00スイスフラン

営業時間：11：00～17：00

閲覧時間の目安：60分

休館日：月曜日

社会契約論ほか、様々な著作で知られる18世紀の哲学者、ジャン・ジャック・ルソーの生家がジュネーブ旧市街にあります。正確には生家の



のあった場所に作られた記念館です。ルソーはジュネーブの時計職人の息子として生まれ、その後フランスで活躍したことが知られています。館内では日本語の説明もあり、貴重な資料や解説映像などを見ることができます。

Rive Droite (右岸)

建造物の増改築に関する規制のある旧市街側と異なり、右岸には近代的な高層建築が立ち並びます。ITUや国連欧州本部など国際機関の多くがこのエリアにあります。最近も様々な開発が進められており、グローバル企業の本社ビルや大型アパートが建設されています。その右岸に点在



する三つのスポットをご紹介します。

⑩アリアナ美術館 (Musée Ariana)

住所：Avenue de la Paix 10, 1202 Genève

Website：http://institutions.ville-geneve.ch/fr/ariana

入場料：無料／併設の有期特別展は有料（内容により5-15スイスフラン）

営業時間：10：00～18：00

閲覧時間の目安：90分

休館日：月曜日

今回ご紹介の中でITUから最も近いスポットがこのアリアナ美術館です。この美術館は、館名にはなっていませんが陶磁器のコレクション



ンが中心で、12世紀から近代までの世界の美術陶芸品とガラス食器が展示されています。日本の伊万里焼や中国の景德鎮、ドイツのマイセンなど有名な陶器が展示されていますが、野菜や動物など珍しいヨーロッパの陶磁器もテーマ別に見ることができます。

このアリアナ美術館は、陶器以外に二つの点で日本に縁があります。一つは品川寺（ほんせんじ）の大梵鐘、もう一つはさくらの並木道です。数奇な運命を辿った東京都の品川寺の釣り鐘は、パリ万博に出展予定だったものが無くなった説と、日本政府がスイスの鑄造所に大砲の製作を依頼した時に鉄鋼材料として送ったという説がありますが、アリアナ美術館創設者のグスタブ・ルビリオ氏がアラーウの鑄造所を訪れた際に美しさに一目惚れして買い取り、アリアナ美術館の庭園に飾りました。一方で、品川寺は30数年に渡って鐘を探し続けていましたが、搜索の意を知る外交官がこの地を訪れた際に発見し、1928年から日本政府を通じて返還要求を行ったところ、美術館の所有者となっていたジュネーブ市が1930年に品川寺に返還しました。この謝意と友好の証として品川区民の寄付を元にレブリカを製作して1991年にジュネーブ市に寄贈し、ジュネーブ市と品川区は友好憲章を結んでいます。



また日本とスイス

の国交樹立150周年であった2014年に、ジュネーブ日本倶楽部（日本人会）が20本の桜をジュネーブ市に寄贈しました。その桜は、美術館から大梵鐘の前を通り国連欧州本部に向かう庭園の小路に沿って植樹され、ジュネーブ市の計らいでその小路は「Allée des Sakura（さくらの並木道）」と名付けられました。もし4月上旬に当地を訪れることがあれば、満開のさくらが皆様をお迎えしてくれると思います。

⑪国際赤十字博物館 (Musée international de la Croix-Rouge et du Croissant-Rouge)

住所：Avenue de la Paix 17, 1202 Genève

Website：www.redcrossmuseum.ch/

入場料：15.00スイスフラン

営業時間：10：00～18：00（4月～10月）／10：00～17：00（11月～3月）

閲覧時間の目安：90分

休館日：月曜日

ジュネーブ生まれのスイス人、アンリ・デュナン氏が創設した赤十字の使命と歴史、及び貴重な資料が展示されています。入口で渡される



音声ガイドでは、日本語を選択することもできます。前述の赤十字創設の理念に加え、家族の絆、人道主義、自然災害という三つのテーマ別常設展示があり、それぞれが映像、写真及び模型などを使って説明されています。中でも戦時下における赤十字の役割について説明した家族の絆ブースには、その役割の重要性と難しさを認識できる体験型の展示があり、色々と考えさせられるものがあります。赤十字のシンボルである白地に赤い十字のマークはスイス国旗を反転させたものですが、その十字のシンボルがキリスト教の十字架を連想させるという宗教上の理由により、イスラム圏での活動時には白地に赤い三日月のマークが赤十字のシンボルとなります。

⑫科学史博物館 (Musée d'histoire des sciences)

住所：Rue de Lausanne 128, Parc de la Perle du Lac, 1202 Genève

Website：www.ville-ge.ch/mhs/

入場料：無料

営業時間：10：00～17：00

閲覧時間の目安：60分

休館日：火曜日

レマン湖に面した湖畔の公園の一角に科学史博物館があります。ITUから駅に向かう15番のトラムのFrance 駅から徒歩10分程のところの位置し、湖畔を散歩しながら植木の中を進むと、白い小さな邸宅のような博物館が現れます。ここでは17世紀から19世紀のジュネーブの科学の歴史とスイス人科学者などが紹介さ



れ、近代天文学の礎となった当時の研究機材などが展示されています。また湖を臨む庭園内には様々な体験型のオブジェがいくつかあり、ちょっとした科学の雑学を楽しむことができます。

おわりに

今回はジュネーブ市内に立地する博物館と美術館をご紹介します。会議のために到着された日の午後や帰国前の数時間に立ち寄ることができ、また殆どのスポットが週末にも開館していますので、出張者や旅行者のジュネーブの地の思い出として、また知的好奇心を刺激する東の間の見聞としてご利用頂ければ幸いです。



オリンピック博物館 <http://www.olympic.org/museum>

ジュネーブからレマン湖沿いに約60km北上した、国際オリンピック委員会 (IOC) 本部のある、ローザンヌにある博物館です。ジュネーブからは、スイス国鉄に乗りローザンヌ駅で下車、メトロ線に乗り換えウーシー (Ouchy) 駅で下車、レマン湖沿いに徒歩約15分、というルートで1時間半程度の旅となります。

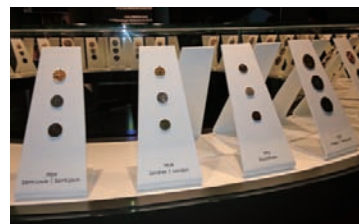
入館料は大人18スイスフラン。営業日は、夏季 (5/1～10/14) は毎日9～18時、冬季 (10/15～4/30) は火～日曜10～18時。(2015年2月現在)

世界記録の高さにセットされた走り高跳びのバーをくぐり館内へ入ると、古代、近代オリンピックの歴史解説から始まり、1896年の第一回アテネ大会からの全ての大会のメダル、ポスター、聖火のトーチなどが展示されています。

また、実際の選手のウェアや競技道具の展示もあり、用具や素材の進化を見ることができます。そのほか、歴代の名場面などの映像展示も豊富です。展示の最後にある金銀銅のメダル表彰台が記念撮影スポットとなります。

2013年12月にリニューアルされた館内はとても綺麗です。また、レマン湖を見下ろす高台に立地しており、屋外の眺望も素晴らしく、ジュネーブからの鉄道移動を含め、会議等で疲れた心身のリフレッシュにちょうど良いかと思います。

(文・事務局)



メダルの展示